授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1451 号

Adverse effects of dry eye disease on quality of life among university staff in Japan

(ドライアイが大学職員のＱＯＬに与える影響)

當仲　香（とうなか　かおる）

博士（医学）

<u>論文審査結果の要旨</u>

本論文は、ドライアイ（dry eye disease，DED）と生活の質（quality of life，QOL）の関連を検討したものである。

DED 症状をもつ人は潜在的な患者数を含めると非常に多いと推測され、DED による QOL の低下は、医療費や関連疾患への影響を考えると、社会における重要な健康問題であると考えられる。しかし、従来の研究では、眼科を受診したドライアイ患者を対象とするものが殆どであり、受診をしていない一般集団におけるドライアイと QOL との関連についての調査は非常に少ない。

このため、本研究では、ドライアイで受診したことがない一般集団を対象に、DED と QOL の関係を調査した。QOL の評価には The Medical Outcomes Short-Form36（SF-36）を用いた。その結果、DED 群の QOL サマリースコアは日本人の標準値に比較し男女とも低いことを明らかにした。また、男性の精神的側面の QOL サマリースコア（MCS）において、DED 群は非 DED 群に比較して有意にスコアが低く（$p<0.01$）、さらにステップワイズ重回帰分析では、DED の有無は男性の MCS において、有意な関連がみられ、DED の存在と有意な負の関係を裏付けた（$p<0.05$）。

今回の研究は、眼科を受診していない一般集団においてもドライアイ症状を改善することが、メンタルヘルスを含めた QOL 向上に貢献する可能性があること示したものであり、ドライアイ治療におけるポピュレーションアプローチが有用である可能性を示した意義のある論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。